

資源要域ノ確保、爲ニ第八方面軍ノ健闘ニ依リ
敵ノ進攻企圖ヲ成ルヘク東方ニ封殺スルト共ニ緬甸ヲ
南方軍北翼ノ據點トシテ堅固ニ保持シ得ルノ態
勢ヲ速ニ整正ヘントスルニ在リ

緬甸方面軍ノ見解モ亦其ノ軌ヲ一ニス

ニ、第十五軍ノ五月頃ニ於ケル作戰構想

第十五軍ハ緬甸進攻當時ノ作戰思想ヨリ未ダ脱却シ得ス英印軍ノ戦カラ過少評價シテ師團

七

ヲ以テ「レド」公路方面ヨリ一ヶ師團ヲ以テ「インペール」方面
ヨリ先ツ「アッサム」州中央高地（「シルガール」南方）ニ進出
シ次テ「プラマプト」ラ東域ヲ略守シ政謀略ヲ併用シテ
印度ノ獨立ヲ策スルニ如カストナセリ

三、第十五軍ニ對スル南方軍ノ指導

帝國戦力ノ推移、東亞戦局ノ現況ハ不成功ノ因
子ヲ多分ニ包含スル而シテ、奔放ニ作戦ノ實施ヲ

許サス

彼我ノ實カラ具サニ檢計シ確實ニ勝算ヲ確認シ
タル後實行ニ移スヘキナリ之カ爲方面軍ニ於テ成ルヘク
速ニ兵棋研究ヲ實施シ具体的方策ヲ樹立スヘトナセリ

四、緬甸方面軍ノ指導

方面軍ハ南方軍ノ指導ニ基キ進攻確實案ヲ以テ策
十五軍ヲ指導セシカ第十五軍ハ積極進攻案ヲ強調スルコト切

ナルモノアリ

方面軍ハ雨季明クハ後ノ作戰特ニライブル作戰

研究ノ爲六月末大本營及南方軍主任者臨席ノ下ニ兵
棋研究ヲ實施セリ其ノ結果ヲ要約スル左ノ如シ

イ、アッサム州中心部ニ向テ進攻ハ我カ戦力並ニ爾後ノ確保
繼續ノ觀莫ニ於テ過~~望~~ナリ

ロ、インパール州作戰ハ防衛態勢ヲ強固テラシムルニ緊小切ナル
テラス或ハ萎縮セントスル國民士氣振興ノ爲ニモ實施スルヲ

要ス

然レトモニカ實現ノ爲ニ各方面軍ニ對シ更ニ兵力ニ節團

自動貨車少クモ一千輛、彈藥四師團會戰分

其他若干、補助部隊ヲ増加スル、西アリ

措置

右ハ南方軍内ノ兵力、軸出轉用、他大本營ノ援

ヲ要請スルヲ要ス

助_手係_サル_ハカ_キ之_カ為_ス南方軍_ノ速_ニ中央_ト連絡_ス

~~措置~~

五

稻田總參謀副長、上京連絡

稻田總參謀副長、七月中旬上京大本營ニ到リ南方

軍ノ現勢ヲ委細報告スルト共ニ緬甸方面ニ於テ新

攻勢作戰ノ必要ヲ力説シ之カ準備實施ニ関シ諒
解ヲ得タリ

尚右實施ニ必要ナル部隊(15D 54D 24MB 兵隊部 野輸司 下若干他)ノ派遣

彈藥(四師團會戰分)自動車部品(一千輛分)輸

送交付ニ就テモ諒解ヲ得タリ

ウ號作戰準備命令ノ下達

南方總軍自ニモ亦「インパール」作戰ニ関シ研究ノ結果

左ノ結論ニ達セリ

1. 敵ノ海軍兵力特ニ航空兵力、未タ不十分ナル現

況ニ鑑ミ^改印度洋方面ヨリ直接馬來本土並ニスマト

ラニ^{向ヒ}來攻^スニ公算ハ甚キモ~~敵~~陸正面ト共ニ海

正面(特ニバセイニ地區或ハラニグーニ地區)ニ進攻シ

來ルモトラ考慮スルノ要アリ

從ツテインパール攻勢ニ使用スル兵力ハ右應急防衛

措置ニ遺憾ナカラシムルト共ニ隨時一部ヲ轉用増強

シ得ルコトヲ顧慮スルヲ要ス

十

口 緬甸^{ニ對スル}兵力及後方資材、**精進**、十月末頃迄ニ終了

スヘト推測シ得ルモ敵爆撃ノ激化交通ノ**遮断**

雨季ノ妨碍等ノ為不測ノ遲滞ヲ見ルノ算多ク

以テ作戰ノ實施ハ尚南方軍ニ於テ保留シ準備

進捗狀況ヲ勘案シテ命令スルノ要アリ

ハ第十五軍^{ニ對シテ}現時依然トシテ緒我ニ於テ休養セル

能^ク不羈奔放ナル猛進戰型式ヲ希求スル、餘

リ後方關係ヲ輕視シ勤ミモスル觀念ニ趨リ多ク

危険性ヲ包藏スルモノアルヲ以テ防衛強化ノ目的ヲ明カニ

ニ方面軍ヲシテ特ニ具体的ニ慎重ナル指導ヲ加ヘシムルノ

要アリ

ニ南方軍トシテ大綱ノミヲ示シ權威アル方面軍ニ自由

裁量ノ餘地アラシムルコトハ勿論ナルモ從來ノ經緯ニ鑑ミ

兵力海正面防衛、地勢、輸送力等ニ稽ヘ主攻勢正面

ヲ指定スルノ要アリ

右ニ基キ方面軍トシテ間ニ内交渉ヲ逐ケタル後八月五日頃左

十一

記要旨ノ準備命令下達セラレタリ

左記

一 方面軍ハ左記要綱ニ基キ作戦ヲ準備スヘシ

左記

一 方面軍ハ防衛強化ノ爲「イニール」方面ニ攻勢ヲ採リ

爾他、正面ニ於テハ持スヲ策ス

本作戦ヲ自今「ウ」號作戦ト呼稱ス

ニ「ウ」號作戦ハ準備完了ニ伴ヒ自主的ニ實施ス

主攻勢正面ハチドウイン河西方地区トス

攻勢発起ノ時期ハ十月以降ト豫定スルモ別命ス

三 敵若シ我ニ先タチ攻勢ニ轉シ來ル場合ニ於テハ概ネ攻

勢準備ノ位置ニ於テ之ヲ撃摧シ引續キ「インバル」

方面要線ニ進出ス

四 敵若シ我「ウ」號作戰實施ニ先タチ海正面ニ主反攻ヲ負

施スルニ於テハ「ウ」號作戰ヲ中止シ該方面ニ方面軍主

カラ集中シ先ソ之ヲ撃摧ス

右命令發セラルルヤ方面軍ト並ニ軍ヨリ交々衷心ノ喜悅

ト共ニ死カラテ盡ヒテ期待ニ副ハンコトヲ期スル旨返電アリ

又以テ當時ノ緬甸方面軍ノ士氣ヲ窺知スルニ足ルヘシ

其ニ
ウ號作戦準備
一、兵力ノ増強

ウ號作戦實施ノ爲方面軍固有兵力、他増強セシ兵力

左ノ如シ

a 第三十一師團

在馬來第二十六步兵團

ヲ基幹トシテ現地ニ於テ編

成四月頃ヨリ重裝備部隊及貨物ハ鐵道輸送ニ依リ

他ノ主力ハ泰緬鐵道併行路ヲ徒步行軍ニテ緬甸ニ進

入十月頃「マングレ」北側地區ニ集中シ得ル目途ナリ

兩期ニ於テ泰緬道路ノ行軍ハ泥濘膝ヲ没シ加フルニ

コレヲノ猖獗ノ爲難澁ヲ極メタルモ概テ順調ニ進捗

セリ

長第五十四師團

五月頃三分の一師團ハ既ニ「ジヤワ」上陸シアリシモ緬甸南西
海岸方面ニ之ヲ使用スルコトナリ急遽豫定ヲ變更シ
主トシテ海路緬甸ニ進出セシメタリ

同師團ノ海路輸送ニ際シテハ船團ノ編成、航空護衛ニ

周到ナル注意ヲ拂ヒタル結果、兩期ト相俟テ豫想以上

順調ニ進捗シ十月頃迄ニハ概テ態勢ヲ整ヘ得ルニ至

レリ

C 第十五師團

五月頃師團ハ尚南京上海杭州ノ廣範圍ニ分散シ

アリシカ八月頃ヨリ

逐次西貢ニ上陸先ツ泰國ニ集中セシメタリ

同師團ヲ先ツ泰國ニ集結セシメタル理由左ノ如シ

敵ノ反攻動向未タ判明セス諸種ノ情況判断特ニ中

央ノ意嚮ハ海正面ヨリスル敵ノ反攻ヲ危惧シアリタルヲ以

テ之カ使用ヲ方面軍ニ一任スルトキハ緬甸北方ニ使用ス

ルコト明瞭ニシテ敵ノ海正面反攻ニ際シ機ヲ失スル虞

アルヲ以テ當分總軍豫備トシテ掌握スルノ要アリ

ロ 同師團ハ對支那戰闘ニハ慣熟セルモ對英戰法ニ於テハ
更ニ訓練ヲ重メルノ要アリ

ハ 敵爆撃ノ激化、海上交通遮断ノ強化傾向ニ鑑ミ、背

後連絡線ヲ充實整備スルノ要アリ之カ爲兵團ノ

カヲ以テ「チエンマイ」「トング」道ヲ開設セシム

ニ 對森林戰裝備ヲ完定セシムルコトハ泰國内ヲ便トス

一 方方面軍ニ在リテハ「ウ」號作戰ノ研究ヲ重メルニ從

ヒ少クトモ一師團ヲ第十五軍ニ増強スト、要アルヲ認
メ屢次ニ互リ意見ヲ具申レ來レリ南方軍ハ其ノ
意ヲ了トスト雖モ之ヲ直ニ認可セス此ノ間比島ニ於
テ再建中ノ第二師團ヲ南方軍ニ編入意見ヲ
中央ニ具申レ遂ニ其承認ヲ得タルヲ以テ茲ニ第十
五師團ヲ第十五軍ニ編入スルコトセリ
第十五師團ハ九月中旬頃行動ヲ発起先ツ、主ボ附近
ニ集結セシメラル

師團ノ進路ハ鐵道ノ閉塞セル關係上、ナエンマイ、ローケン
タシ、ローボ、ローマンダレド、道ニ依リ自動車、徒歩併用
ニテ行ハレタリ該道路ハ概ネ舗装セラレアリト雖モ人煙ナ
キ高山、森林ヲ通ズル羊腸タル道路ニシテ「マンダレ」迄實
ニ一千二百料ヲ算ス

然レトモ意氣軒昂タル部隊ハ弱者及貨物ハ自動車ニ
依リ他ハ徒步行軍ニ依リ給養ノ困難ヲ冒シテ強行
シタル結果豫期上ノ短期間ニ「マンダレ」附近ニ進出シ

十月末頃迄ニ概ネ態勢ヲ究_ル得_ル目途立_テ至_ル

レリ

然_レトモ多大ノ努力ヲ以テ支那ヨリ携行_シ來_レル作戰資材

ノ大部ヲ泰内ニ残置ス_ル止_ムヲ得_サレニ至_ル戰力登揚上

是ニ遺憾ナ_リ

ル 第二師團

總軍豫備トシテ馬來ニ集結其ノ完了ハ十二月中旬頃

ト胸算_シ得_ル

七獨立混成第二十四旅團

「テナセリム」防備ノ爲四大隊ニ増強セラルヘシ

クラングーン防衛隊

増強

ヲ第五工兵司令部 第二野戦輸送司令部

工兵作業輸送業務統一、爲中央ニ屢次意見

ヲ具申シ漸ク設置セラレタル兩司令部ハ作戦準

備ニ奇與セシコト大ナルモアリ

九其他增強セシ主要部隊

獨立速射砲

(四七耗ニ改編)

野戰高射砲

(特設部隊ヲ改編セシモ若干)

鐵道部隊

(第二鐵道監部新設鐵道聯隊ニ)

ヲ緬甸ニ投入第五特鐵ハ泰緬鐵道ニ

第五遊擊隊司令部(長磯田中將十二月編成緬甸ニ)

第四十二兵站地區隊(泰緬鐵道守備ヨリ轉シテミャン州)

ノ防衛ニ轉用)

自動車部隊（「スマトラ」「シヤワ」馬來ヨリ若干轉用）
補給諸廠ノ充實

野戰補充隊ノ新設（「主トレテ緬甸方面補充用」）

「チエンマイ」ニ設ケル

航空部隊

「少」號作戰ニ方リ方面軍ニ協カスヘキ第五飛行師
團ハ昨年雨季明ケ以後連續作戰ニ從事シ善戰
奮闘地上作戰特ニ「アキヤブ」作戰ニ絶大ナル寄與

ヲナセルノミナラス好機ニ投シ短切果敢ナル航空進
攻ヲ行ヒ多大ノ成果ヲ收メタルモ各隊共ニ消耗セル
ヲ以テ一部ヲ以テ蘭貢ノ防空並ニ馬來西海岸
航行船團ノ掩護ニ任セシムル外主カヲ擧ケテ中
部泰及北部馬來基地群ニ於テ專ラ整備訓練
ニ任シ著々次期作戰ノ準備ニ邁進セリ

當時第五飛行師團ノ實動機數ハ約三〇機
ナリシカ年末頃ニハ約二五〇機程度ニ向上シ得ヘシト

十八

1376

期待

其後、位退於テ

然ルニ太平洋方面ノ危局逼迫、為屢次抽出轉用

セラレラウニ號作戦ノ參加兵力ハ豫期ニ反シ減少スル

ハ結果トナレタリ

海軍兵力

第十三根據地隊ハ當時在メテ微弱ニシテ蘭貢附

近河川ノ警備並ニラメルギシラングーニ間船團護

衛任務ヲ辛シテ果シ得ル程度ニ過キカリキ

然ルニ敵ノ反攻氣勢、コウニ號作戦實施等ニ鑑ミル

トキハコバセイニシテ地區ノ防備強化、ダウニガツプ、コアキ

ヤブニ間ノ兵員資材ノ輸送警備等極メテ重要ト

ナレルヲ以テ兵力ノ増強ヲ實施セリ

即チ

司令部ノ強化（特別根據地隊ヲ根據地隊トシ

幕僚陣其他ヲ強化セリ）

警備隊ノ増加（モールメンシ及ダウニガツプニ各一

警備隊ヲ増加ス

近海作戰舟艇ノ増加之ナリ

而シテ海軍航空兵カ「ウ」號作戰ニ參加セス專ラ

印度洋方面ニ備フルコトナレリ

2 作戰資材ノ增強

作戰資材ノ中主ナル部分ヲ占ムルハ彈藥及自動車

ナリ彈藥及自動車ノ大部ハ兵力輸送ノ爲

運送用貨車
鐵道現況上勢ト船舶ニ依ラサルヘカラス然レトモ船舶

輸送ハ敵機ニ依ル爆撃ト機雷敷設ノ爲新ク危
險トナレルヲ以テ是非共雨季中ニ輸送ヲ完了セサルヘカ
ラス之カ爲休養整備訓練中ノ飛行部隊ヨリ一戦
隊ヲ抽出シ航空護衛ヲ充實スルト共ニ第一南遣艦
隊ヲシテ護衛艦艇ノ重點配置ヲ實施セシメラングーシ
防空力、掃海能力ヲ増加スル等爲シ得ル限りノ防衛
措置ヲ講スルコトトシ又人員輸送モ一名一屯ニ狹縮乗
船セシメ餘積ニハ洩シナク資材ヲ搭載スル如ク嚴ニ實

施セシメタリ

右ト併行シ「カオファージ」「メルギ」「モールメン」ノ揚格能

カノ向上、避迫施設ノ増強ニ努メタリ 總軍カ雨季間

ニ於ケル主要作戰トシテ 關係部隊ヲ督勵セル結果

~~未~~ 雨季明迄ニハ多少ノ被害アリタルノミニテ大

部ノ輸送ヲ完了スルコトヲ得タリ 困

爾後彼我航空勢力ノ格段ハ差ハ馬來西海岸ニ大

型船ヲ使用スルコトヲ得ス

緬甸カ交通ノ見地ニ於テ孤立的狀態ヲ招キ乍ラ終戦迄辛シテ作戦ヲ持續シ得タルハ「ウ」號作戦ノ爲大型船ノ突込輸送ヲ断行セル餘慶ニシテ然ラサル場合ニ於テ緬甸方面軍ノ窮狀ハ更ニ其ノ時期ヲ早メタルナラント断セサルヲ得ス

三、交通路ノ整備

1. 作戦道路

「ウ」イニト「レ」ウ「ミ」タン「道」

「ウイントー」「トウ」「ヌマンチ」道

第十五軍ノ最モカラ致セシ道路ニシテ不可能ト

思惟セラレタル「ニエゼ」山系横断ニ成功セリ

第五工兵隊司令部ノ功績偉大ナルモノアリ

十二月初旬完竣ノ見込

「マニワ」「カレシヨ」「タミユ」道

十月末頃完竣ノ見込

「タエトシヨ」「ミンビヤ」「アキヤブ」道

十二月末完成ノ見込

口後方道路

「ランパン」
「ケンタン」
「タカオ」道

十月末完成

「チエンマイ」
「トング」道

十二月末開通ノ見込

「ラヘン」
「メソ」道

泰國駐屯軍ハ泰國側ニ擔任セシメタルモ開通ノ

三二

時期見込立タス

ハ泰緬鐵道

雨季間、保續ヲ圖ル共ニ雨季明後、敵爆撃ニ對

防備施

スル保守設備ノ完成ヲ圖ル

ニ「ダウンガツプ」「アキヤブ」間水路ノ保持

待避施設ノ増強ヲ圖ル

四、ウ「號」作戰最終研究

ウ「號」作戰最終研究ノ為、兵棋八十二月十日頃メ

イミヨールニ於テ綾部總參謀副長中方面軍參謀
長臨席ノ下ニ第十五軍作戰計畫ニ從ヒ實施セ
ラレタリ

右兵棋ニヨル研究ノ結果本作戰ノ實施ハ幾多ノ危惧ヲ
包藏スルヲ以テ之カ實施ニ関シ賛否兩論ヲ生セシモ

綾部總參謀副長ハ結局戰略戰術上「ナガヒ丘陵
コヒマ」「イニール」西方高地ヲ連ヌル要線ハ緬甸防衛
上確保スヘキ絶對ノ要線ニシテ此ノ爲ニ多少ノ危惧

アルモ本作戦ヲ決行スルノ必要ヲ認メ茲ニ南方軍ノ
態度一決セリ此ノ決定ハ總司令官ノ意圖ニ合スヘキ

コト明瞭ナリキ

~~其ノ三~~ 其ノ三 ヲ號作戦實施

一 南方軍總司令官ハ大陸命ニ基キ二月上旬緬甸方面
軍司令官ニ對シ緬甸防衛強化ヲ爲三月以降隨時
ヲ號作戦ヲ發動スルト共ニ緬甸南西沿岸ノ防
衛ヲ強化スヘキ命令ヲ下達セリ

六 作戰発起ニ至ル迄ノ各方面狀況

作戰實施ノ命令ヲ受ケ方面軍以下士氣旺盛專ラ作

戰準備ニ邁進シアリシカ敵ハ雨季明後ニ於テモ活澁

ナル~~蠢~~行ヲ示ササリシカ戦端ハ怒江方面ヨリ開始セラ

レタリ

イ怒江方面

第五十六師團ハ拉孟、騰越、龍梭ヲ三大據点トシ

ダンロニニ一部ヲ配置シ頻時渗透ニ來ルル重慶

軍ヲ反撃す毎次多大ノ戦果ヲ收メタリ其ノ戦績ハ我一大隊ヲ以テ敵一ヶ師團ニ對抗スルニ十合ニシテ下月初旬参透シ来ルニ蔣軍ニハ各處ニ之ヲ包圍シ健闘中ニシテ怒江方面概テ「ウ」號作戦遂行中大志脅威ト看做サルモ可ナルヘシ

ロドリアングル地帯

第十八師團ハ十月當初以來「レド」方向ニ突進隘路ニ於テ敵ヲ拒止セントセシモ果サス「マイン」ノ北

方大河ノ渡河ニ於テ之ニ乗セントシテ成ラヌ爾後遂
次抵抗ニヨル困難ナル撤退作戰ヲ實施シ
特スシツツアリ

ハ緬甸南西沿山岸方面

敵ハプロチドシ「モンド」ノ線ニ活動シ度々第

五十五師團ノ前線陣地ヲ突破シ滲入シ來レルモ我
又果敢ナル突進切込戰法ヲ以テ之ニ對抗シ殊
ニ櫻井兵團ノ如キハ敵兵團ノ間隙ヲ縫ヒテ當面

敵ノ背後ニ進出シ有力兵團ヲジンゼイワニ包圍
セシモ戰力十分ナラス糧秣ノ欠乏ノ爲遂ニ解圍
復歸スルニ至レリ

此ノジンゼイワノ包圍戰ノ挫折ハ敵ニ非常ナル自
信ヲ與ヘインパール會戰ニ於テモ敵ハ執拗ニ固著
シテ過早ノ撤退ヲオササレニ至レリ

一方敵ノ小艦艇群ハ南西沿岸ニ屢々出沒トシ
シカ十二月末遂ニラムレ島ニ上陸ヲ開始セリ右ハ敵

乍候部隊ノ上陸ニシテ間モナク撤去セル旨報告ニ
接セシモ該方面ノ狀勢判断上其團ヲ增加スルニ決シ

十二月末馬來ニ略ニ集結シタル第二師團ヲ急遽

派遣スルコトニ決定セリ爾後第二師團ハコバセイニ地

區ニ配置セラレ二月末概ニ其態勢ヲ整頓セリ

而シテ此ノ方面統一指揮ニ任スル為第二十八軍新設

セラレタリ

三、第十五軍「ウ」號作戰發起命令

第十五軍ハ概テ最終作戰研究ノ構想ニ基キ

作戰發起ヲ命令セリ

作戰發起ノ期日左ノ如シ

主力方面 三月八日

「アキヤブ」方面 三月二日

四、敵空挺部隊ノ降下

第十八師團ハ逐次敵ニ壓迫セラレ三月當初ニ於テ

ハ「モガウ」ニ北方ニ窮蹙スルノ止ムヲ得サルニ至リ

敵ハ該兵團ノ退路ヲ遮断シ之ヲ壊滅シテ北緬甸

ヲ奪回シ一舉ニ印支地上ルリトシノ再開ヲ企圖セルカ

如ク三月五日空挺部隊ヲ「ロイパウ」「カーサ」「モイ」地

區ニ降下セシメタリ

敵降下部隊ハ直ニ飛行場ヲ建設シ之ヲ核心トス

ル蜂ノ巢陣地ヲ構成スルニ至リ兵力ハ五千以上ト

算セラレ

總軍ハ「ロイ」號作戦遂行ヲ第一義トシ爾餘兵

三十七

カヲ以テ之ヲ處理スル如ク指導セリ

方面軍ハ先ツ所在鐵道部隊ヲ以テ之ニ當ラシ

メ次テ第十五軍豫備二大隊ヲ以テ之ヲ攻撃スルト

共獨立混成第二十四旅團(三大隊)ヲ増派シ爾後

第二十八軍ヨリ五大隊ヲ派遣スルトト爲セルモ交通

線ヲ不効ニ爲シ時機ヲ失シ逐次戦闘加入ノ狀況トナシ

早急處理ヲ望ムヘカラス依テ總軍ハ三月初旬

漸ク馬來ニ集結セル第五十三師團ヲ緬甸ニ派遣

シ之カ處理ニ任セシムルコトナレリ

敵空挺部隊、空中補給ニ依リ極メテ執拗ニ抵抗

シ四月中旬第五十三師團カ進出スルニ及ヒ漸クホロ

シ北方ニ退避スルニ至レリ

五

第十五軍主力ハ豫定計畫ニ從ヒ三月八日早曉

渡河ヲ開始セリ、本渡河作戦ハ全ク敵、虚ヲ衝

キ無血渡河トモ云フヘキ成功ヲ收メタリ、爾後攻勢カハ

順調ニ進捗シ概テ豫定ノ如ク第三十一師團ハ

四月六日「ゴヒマ」ヲ吉領第十五師團ハ四月下旬
「イニバル」北側へ進出其一部份ハ「ゴヒマ」「イニバル」
道ヲ遮断スルニ至リ又第十三師團ハ「ゴヒマ」
ハ「トング」ニ於テ英印軍ヲ局部的ニ包圍シ
自動車ハ〇輛其他莫大ナル軍需品ヲ〇獲スル
等成功ヲ收メタリ

六、南方軍統帥組織ノ變更

此、間太平洋戦局ハ逐次惡化シ比島防衛強

化ノ要緊切トナレルヲ以テ大本營ハ第十四軍ヲ
南方軍ノ隷下ニ編入、南方軍ヲシテ南方全域ノ
作戰ヲ主宰セシメ特ニ航空船舶兵站ノ重要運
用ニ依リ比島方面ノ戰備ヲ急遽ニ整備センコトヲ
企圖シ南方軍組織ヲ根本的ニ變更シ舊南方
軍幕僚ノ主力ハ三月十五日昭南ニ新設セラレタル
第七方面軍ニ編入セラレ人事茲ニ更新セラレタリ
爲ニ南方軍ノ緬甸方面作戰ノ指導ハ一時中

統帥

絶ノ状態ニ陥リシハ蓋シ已ムヲ得スト雖ヒ遺憾至
極ト謂スヘシ

七、印度國民軍並ニ緬甸國軍ノ協同

自由印度假政府首席兼印度國民軍最高
司令官「チヤンドラボース」ハ一月上旬蘭貢ニ進出方
面軍ニ密ニ協力セリ即チ「アキヤブ」ハカ「ラアラム」
方面ニアリテハ遊撃隊ヲ進出セシメ情報ノ収集小
部隊ノ撃破ニ功アリ「インパール」ト占領後ハ「ナガ」

陵ニ進出遊撃ニ任スル豫定アリシモ遂ニ實現ス
補給ノ困難後方整備十分ナラサル中ニ克ク日
本軍ノ補助トシテ活動セシハゴボトスノ統率力ニ
依ルトコロ多ク偉トスルニ足ル
又緬甸國軍ハ主トシテ後方警備ニ使用セラレタ
ルカ概ネ其ノ任ヲ果セリ

第三号

其非印度洋方面ノ状況

其ノ其ノ據地、印度洋方面防備状況

一、五月頃ニ於ケル防備状況ハ左ノ如ク全ク開放状態ニアリ

キ

「アダムシ」海軍第12特別根據地隊

「ニコバル」(約20名)ノ外近衛第3師團ノ2大隊ホ1

トブレイヤニ駐屯セル外無防備

「馬來」

第18獨立守備隊(2大)ハ昭南ニ駐屯

第12獨立守備隊(3大)ハマニルニ駐屯

三十一